

会議議事録(要旨)

会議名	令和7年度第3回 宝塚市自立支援協議会 障害(がい)福祉基金活用検討 会	場所	宝塚市 中央公民館 203・204学習室
		開催日時	令和7年9月2日(木) 15:00 ~ 17:00
出欠者	出席者:委員18名(委員総数20名) 事務局3名 見学12名		
議題		内容	
【事務局説明】 障害(がい)福祉基金活用検討会の会議の進め方について		前回からの議題の進め方の見直しを行った。重要な論点について十分に議論を深める時間の確保に至らなかったため、今回の会議では改めて掘り下げ、より具体的かつ建設的な意見交換の場としたい。 スケジュールについて、第3回会議では課題整理の再度の評価及び施策案の意思決定マトリックスのまとめを行う予定と説明をしたが、事務局及び会長、副会長と協議の上、課題について掘り下げ、しっかりと意見交換を行い、課題に対する具体的な議論を深めていただく時間とし、意見を改めて伺う。 第4回目までのこの検討会で議論いただく内容について説明する。 宝塚市における障害福祉での課題についてしっかりまとめていきたいと考えている。前回会議の際に課題整理と、施策案についての意見をもらい、それぞれの委員の立場から、課題に対しての意見の違いもあった。課題について具体的に何が困っていて、解決としてはどのようなことか具体的なイメージを持てなかった面もあり、課題をしっかり掘り下げ、共有することを第4回目までのゴールとし、具体的に見える形にしていきたい。	
【協議事項】 課題整理表についての質疑応答・意見交換		障害(がい)福祉における課題と解決策が多角的に議論された。 医療的ケア児者や重度心身障害児・者の避難所・ショートステイ不足において、新規拠点の整備や既存施設活用、民間との協働による補助の必要性が示された。人材面では、相談支援専門員が多数のケースを抱える現状が問題視され、基幹相談を中心とした支援者支援、先進地との連携研修、資格取得助成などを通じた人材育成と定着の強化が求められた。就労支援では移行・定着支援事業所が少なく、B型が乱立していることも課題とされ、アセスメント研修や事務局機能強化による質の向上が提案された。 さらに障害(がい)のある方の居場所は少なく、また利用しにくく、地域活動支援センター等に役割を持たせ補助で参加しやすくする方策などが示された。 スポーツ分野では市内施設不足から他市に遅れており、総合的な施設を整備し、スポーツができたり、医療的ケアや交流機能を持たせる必要性が強調された。精神障害者への支援では外出困難や交通費負担が大きく、バス運賃補助や中間施設の整備が求められた。 全体を通じて、基金活用の在り方、人材確保、既存資源の活用と新規整備のバランスが論点となり、相談支援や住まい、避難所、人材確保、共生拠点整備など多岐にわたる課題が議論された。 委託相談で環境変化に弱い利用者への対応が難しい実情を報告し、親の高齢化を見据え訪問看護や親せきとの関係づくりを進めていることや、精神障害者が障害(がい)を理由に入居を断られる事例や、生活保護の住居費上限が物価高騰で不十分な点を挙げ、空き家活用を提案した。 ケース会議の重要性を強調し、年1回の定期開催で親の不安軽減や医療・福祉の連携強化につなげる必要性、能登半島地震で始まった「1.5次避難所」から医療機関への移送に期待すること、また、若者に魅力ある福祉のイメージを広め、人材確保の施策推進すべきであることも述べられた。 入居拒否は差別解消法違反であり、不動産業者等への周知の徹底する合理的配慮の必要性があることの意見もあった。 市の計画に明記されていることは実施していくことや、西宮市の「ふれぼの」のような共生拠点の整備が宝塚市にも必要であることなど、安心できる相談・居住体制、災害時対応、人材確保、共生社会実現の基盤整備も課題として取り上げられた。	